

質問および意見書として提出します。

「淀川水系河川整備計画原案に関わる疑問」(再質問)

2007年10月30日
自然愛・環境問題研究所
代表 浅野 隆彦

- 1) 【604】 それならば、現況の岩倉峡疎通能力を2地点を代表させて示されたい。
 1. 岩倉観測所の「無害流量」および「最大流量」。
 2. 岩倉地点(57.4K)の「無害流量」および「最大流量」。また、今回から使用するとしている「H-Q曲線」から逆算し、「粗度係数」を出し示されたい。
- 2) 【617】 高山ダム水位＝標高 E.L. 94.3mの時、水面上に表出する堆砂量はいくらか示されたい。全ての既設ダムにおいても、当該ダムの「低下可能水位」における水面上表出堆砂量を示されたい。
- 3) 【619】「時系列5式」並びに「コーホート要因法」とはどういった推計法か詳しく教えて貰いたい。
- 4) 【620】 森井堰の受益面積は44haあり、確認された排水口は区内3.9ha分のものではないか？大半39.1haは名阪国道より北へ出て、久米川左岸川尻の排出樋門より木津川へ「還元」されていると聞いている。この用水経路全てを配置図に記入し示されたい。
- 5) 【621】 「基本高水」でなければ、「計画高水」なのか？「川上ダム治水利水計画検討調査報告書・治水編(平成3年3月)」で、1,100m³/Sとなっているが、これは何か？また、これは流域平均雨量の改竄によって計算された「詐欺的な報告書」であることを指摘して来た(淀川水系流域委員会参考資料 意見書NO.702)が、その後修正されているのか？
- 6) 【622】 「意向」は誰から聞いたのか？聞いたと言う場所、会議名、日時を示されたい。「一部減らしたい」という「意向」もあったのではないか？
- 7) 【623】 不特定、一部住民の話し合いの事ではなく、河川管理者が「代替案」の真剣な検討をしようとする場合、現地の地権者や所有者等に条件その他の聞き取りなどをする必

要があろう。そういった類の記録をいつているのである。まさか机上の検討だけで済ましてきたと謂う訳ではないだろう？

- 8) 【672】「H-Q曲線」が特定できれば、逆算すれば済むこと。計算式を示し、「粗度係数」を示されたい。岩倉観測所地点の計画高水位での横断面積を使って、やられたい。
- 9) 【673】 基本的には、柘植川と服部川流域に降雨が大きく偏って降る場合とその逆の場合を検討する。片側の遊水地が早く満タンに、逆流を始める、水位がドンドン上昇していく中で、反対側の流れも増えて来る、狭窄部でのバック・ウォーターはどのように響いてくるか を検討することで、越流堤の高さや長さに対する判断、ピーク・カットが本当にできるのか、どのようにすれば最も有効な役割を果たす事が出来るのかなどの判定ができるだろう。その判定の為には「平均化シミュレーション」という手法だけではなく、上記のような「地域分布による特殊洪水シミュレーション」も加えなくてはならないと考える。